

平成 25 年度 自己評価表

鳥取県立琴の浦高等特別支援学校

中長期目標 (学校ビジョン)	キャリア教育に重点を置き、地域の中で職業的に自立するとともに、主体的に活動、社会参加し、社会に貢献できる人を育成する。そのために、学校生活の基礎基本を確立し、主体的に活動しようとする意欲を育てる。
---------------------------	--

今年度の 重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ○基礎基本の確立と、意欲の涵養 ○社会人としての基礎力の育成 ○熱意と工夫を持った新しい学校の創造
----------------------	---

年 度 当 初		評 価 結 果 2月					
評価項目	評価の具体項目	現状	目標(年度末の目指す姿)	目標達成のための方策	経過・達成状況	評価	改善方策
教務部	○年間指導計画の見直し修正及び次年度の計画の作成	○計画を実践に移す段階でありすべての面で検証が必要である。	○継続した週案の作成及び活用ができています。	○週案の活用状況の分析と活用方法の周知	○概ね継続して作成することができた。特に指導計画を作成する際には、有効に使うことができた。	B	○自分の担当教科の計画等には積極的に利用することが多かったが、他教科との関連を見たり、足並みをそろえたりする等の横のつながりも工夫していく。
			○年間指導計画の修正と来年度分の整備が完了している。	○今年度分の使用状況分析の実施	○来年度の指導内容について、職員で検討できた。今後、修正をし新年度には周知をする。	B	○作成した年計は、随時修正し次年度へ生かす。
基礎基本の確立・意欲の涵養	○挨拶の励行	○挨拶をしようとする生徒が増えつつある。	○100%の生徒が朝の挨拶を自分からしている。	○学年スローガン等による意識付けと教員の見本 ○行事の目的、スケジュール、ふりかえりなどの伝え方の工夫と、行事終了後のアンケートの実施	○生徒玄関に数名の教員が立ち、挨拶を促してきた。自分から挨拶する生徒が7割、促されて挨拶する生徒が3割である。 ○現場実習に行くと、自分から挨拶ができないと指摘される生徒が多く見られた。	C	○引き続き、朝や現場実習等のいろいろな場面で訴えていく。 ○生徒会、生徒指導と連携して挨拶運動に取り組む。 ○教員自らが行動し、挨拶の見本となる。
	○生徒の意欲を育てる行事の企画	○やる気を感じるものの損得感情が先に来る生徒が多い。	○5割以上の生徒が行事(宿泊学習、宿泊訓練、現場実習、学校祭等)の達成感を感じている。	○行事の目的、スケジュール、ふりかえりなどの伝え方の工夫と、行事終了後のアンケートの実施	○行事を終えるごとに生徒の自信が表れるようになってきた。 ○今後も継続して自己肯定感、自己有用感の向上を図る必要がある。	B	○継続実施。 ○琴の浦版チューター制度を作り、新1年生に学校生活について上級生として助言することにより、自己肯定感、自己有用感を育てる。
	○大阪府立たまがわ高等支援学校との交流	○自分の将来像、学校像をイメージできにくい。学校生活を創り出すイメージを持たせたい。	○参加生徒が交流に満足し、先輩像をイメージできている。	○事後アンケートの実施。事前事後指導の充実	○なかなか全生徒へ還元することは難しいが、行った生徒にとってはいろいろな考えを聞け刺激になった。	B	○他の生徒も交流する機会を作る。
生徒指導部	○生徒指導体制の確立	○不登校や障がい等によって、自己肯定感が十分育っていないが、入学を契機に自分を変えようと考えている生徒が多い。	○基本的な生活習慣の定着と規律あるいじめのない集団作りができています。	○生徒指導体制及び生徒心得の職員間の共通理解と一貫した指導の実践 ○いじめ、学校生活に関するアンケート調査の実施	○全体計画や指導体制の立ち上げができた。 Hyper-QU、いじめアンケートを実施した。	B	○全体計画に基づいた教職員の共通理解を図る。計画的な活動の実施による組織の活性化。観察やアンケートからの課題の発見と、共通理解に基づいた対応や支援の実施。
	○学校生活に主体的に取り組む生徒の組織作り		○生徒会・委員会・部活動が立ち上がっている。 ○生徒会・委員会活動へ意欲的に参加している。	○生徒との話し合いによる生徒会・委員会・部活動の立ち上げ、組織作り(前期) ○生徒の話し合いによる生徒会活動・委員会活動・部活動の企画立案と実践(後期)	○生徒会・委員会・部活動を立ち上げ、組織作りができた。	(前期) A	○委員会、部活動の方法や組織運営について改善を図る。
	○県内4養護学校との交流によるリーダー育成(前期)			○生徒8名の参加と事後の満足度や学校での取り組みについてのアンケート調査の実施	○参加生徒の満足度は高く、学校生活では委員会活動等で活躍している生徒が多い。	(後期) A	○年間を通じた活動方法の内容の検討と充実を図る。
社会人基礎力の育成	○心身ともに健康で安全な生活ができる生徒の育成	○健康診断の結果から、基本的な衛生習慣が確立していない生徒が多い。 ○入学前に不登校経験生徒が5名	○インフルエンザ等の集団感染を起さない。 ○長期欠席者をださない。	○健康観察の充実、日常的な手洗いの励行、咳エチケットにより感染拡大を防ぐ ○スクールカウンセラー、生徒指導部、担任、養護教諭等との連携	○毎日の健康観察による健康に対する意識と、専門教科での手洗いの指導の徹底が、感染拡大を防ぐ目標達成に対し一定の成果があった。 ○欠席者に対して関係者と連携を図り指導・支援を図ったことが、長期欠席者をださないことに繋がった。	A	○長期欠席者をださないための指導・支援の継続。 ○衛生習慣確立の上で給食時の衛生管理の徹底を図る。
	○寄宿舎生活マイスター制度の確立	○寄宿舎生活のきまりを説明、指導している段階。きまりを意識して守ることは、よりよい生活につながるということに気づいて欲しい。	○寄宿舎生が生活マイスター制度を理解して生活している。	○寄宿舎マイスター制度の整備 ○マイスターについて生徒の理解、意欲を促す工夫	○10月より、マイスター制度を立ち上げることができた。研究生と5段階あるマイスターのうちの研究生期間と1段階目期間までを、運用することができた。生徒もマイスター制度について理解することができた。今後も引き続き、基本ルールを守ることの徹底と、自己管理能力の育成を図りたい。	A	○5段階あるマイスターのうち、2段階目～5段階目までの整備と運用ができるようにする。 ○1年生には、主として基本ルールの徹底を、2年生には、自己管理能力の育成を図る指導を行うようにする。
進路指導	○生徒、保護者の実態、ニーズに沿った現場実習の運営	○企業開拓はある程度できているが、生徒の実態、ニーズとのマッチングができていない。 ○生徒が勤労についてのイメージがなく、明確な進路希望を持っていない。	○生徒の実態、ニーズに沿った企業の開拓ができていない。 (新規実習受入可能企業東中部各20社、西部30社) ○生徒の実態把握ができていない。生徒が就労のイメージを具体化できている。	○外部向け現場実習実施要項、実習依頼のちらしの作成・配布。 ○各圏域就労サポーターとの連携 ○進路部による個別面談の実施により、生徒の実態、進路希望の把握。	○連携の難しさはあったが、県内各関係機関と連携し、生徒全員の実習先を決めて実施することができた。(1、2回目各3ヶ所ずつ) ○実習受入可能企業は各地域100社以上確保できているが、本校独自の新規開拓は各教社ずつであった。	B	○他機関、校内との連携を取りやすくするなど進路部の体制作りを行い、各機関と連携を取りやすくする。 ○年2回生徒と進路面談を行い実態把握に努める。 ○職場開拓用パンフレットの作成。

様式 2

新しい学校の創造	課部	○企業に向けての学校PR活動(就労促進セミナーの開催)	○昨年度は就労セミナーの宣伝活動が不十分であった ○参加企業より「毎年同じことでは」との意見があった。	○東部10社、中西部各20社以上の企業が参加し、半数以上から高評価を得る。 ○企業とのネットワーク作りの基盤ができています。	○倉吉養護学校、産業人材育成センター及び企業関係者と連携した実行委員会の立ち上げ。セミナーの内容について新たな企画の取組。 ○月1回の実行委員会の実施	○新たな取組を加えることでセミナーの全参加者は約200名であったが、企業からの参加が35社(50名)であった。 ○月1回実行委員会を実施できたが、組織として運営できなかった。	B	○今年度同様、労働局、ハローワーク等に協力を依頼し、宣伝活動を行う。 ○組織として実行委員会を立ち上げ、運営していく。 ○企業が参加しやすいよう、時期や内容を工夫する。
	地域支援部	○入学選抜に関する取組のシステムづくり	○入学選抜に向けての手続きが十分周知できていない。学校説明会や体験入学、相談会などのシステムを明確にし、中学校等にわかりやすく情報提供する必要がある。	○選抜までの流れを整理し、積極的でわかりやすい情報提供ができています。(志願者相談会の参加者60人以上)	○校内外に取組の内容が伝わるよう、文書やホームページ等で情報発信を行う。 ○学校説明会、体験入学、志願者相談会、生徒対象説明会をスケジュールに沿って開催する。	○入学選抜に向けての取組をスケジュールに沿って開催することができた。 ○志願者対象相談会には67名の参加があった。	A	・学校説明会にはより多くの方に都合をつけて参加してもらえよう、年度当初に年間計画を案内する。 ・中学校の進路指導に役立ててもらうため研修会を開催する。
	総務部	○校外に向けた積極的な情報発信	○開校後の取組状況について、学校関係者、地域、企業などに対して積極的な情報発信が必要である。 ○学校の取組への支援者(企業や地域住民など)を増やし、教育活動を充実させたい。	○保護者、関係者の7割以上が情報提供に満足している。	○学校公開、学校説明会、学校HP、学校通信の充実。 ○満足度アンケートの実施	○学校公開、説明会、HPについてアンケート結果も概ね好評価だった。学校通信については検討課題が残った。	B	○支援部等他の分掌とも連携し、発信する内容の吟味や発信方法の工夫に努め、啓発活動に取り組む。
		○地域(鳴り石の浜プロジェクト)連携		○鳴り石の浜チャレンジプロジェクト関係の事業について参加生徒・関係者の8割以上が満足感を感じている。	○専門教科の実習、生徒会関係の行事など、積極的に地域に学習の場を設定。	○評価アンケートは実施できなかったが、実修行事、授業についての生徒や関係者の反応は良好だった。取り組みについてのPRは不十分だった。	B	○来年度は琴浦町ありがとうプロジェクトと銘打ち、感謝の気持ちを伝えることを目的に、引き続き地域連携を進める

評価基準 A: 十分達成 [100%] B: 概ね達成 [80%程度] C: 変化の兆し [60%程度] D: まだ不十分 [40%程度] E: 目標・方策の見直し [30%以下]